

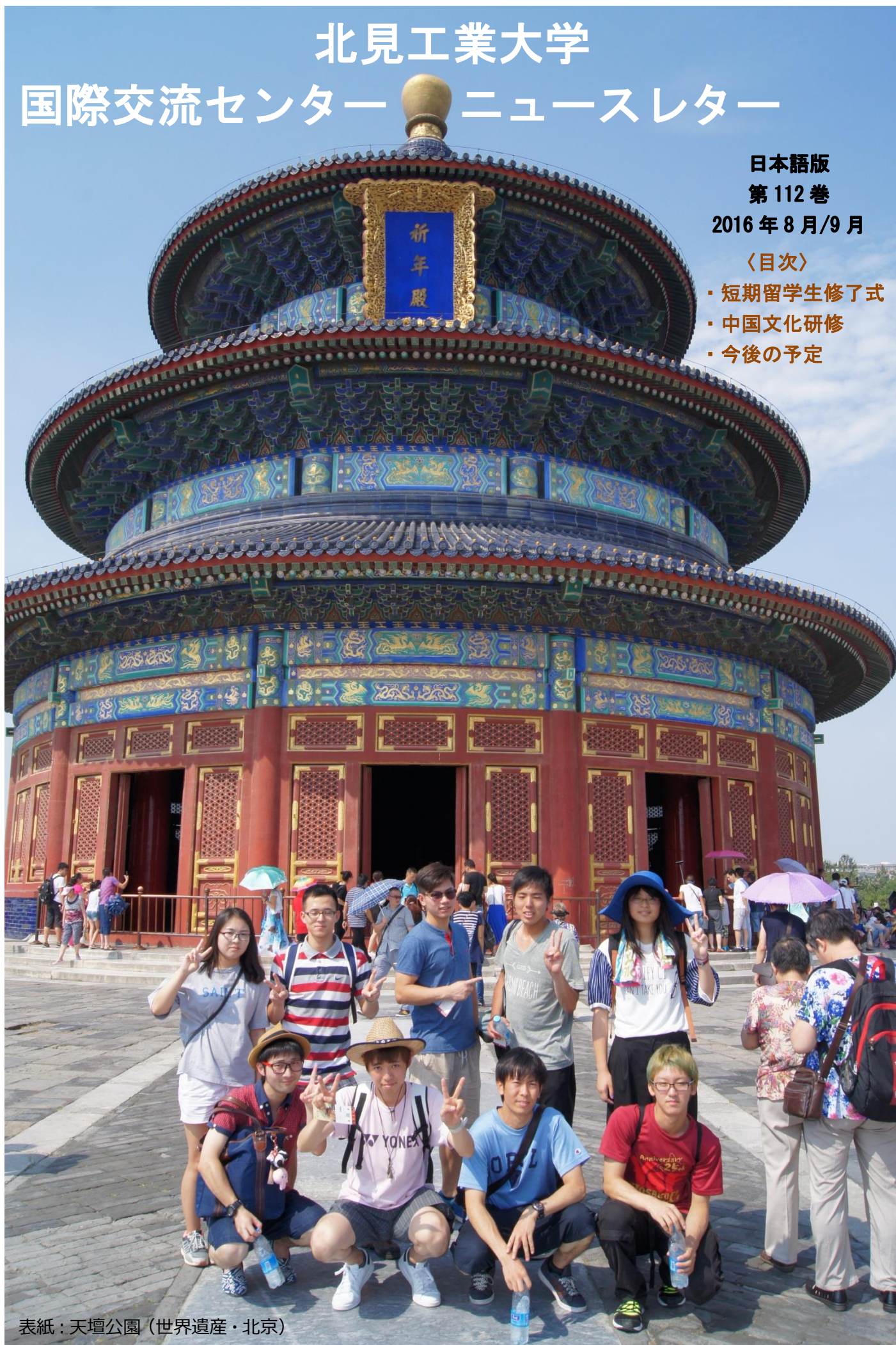
# 北見工業大学 国際交流センター ニュースレター

日本語版  
第112巻

2016年8月/9月

〈目次〉

- ・短期留学生修了式
- ・中国文化研修
- ・今後の予定



表紙：天壇公園（世界遺産・北京）



## 短期留学生修了式（1）

11名の短期交換留学生在が留学期間を終え、修了式が挙行された。式の冒頭、許斐・国際交流センター長より修了証書を一人ずつ授与され、センターの教職員から祝辞が述べられた。留学生達は、留学期間の数々の出来事を脳裏に巡らせながら、話に聞き入っていた。その後、各大学の代表者からスピーチがあり、多くの方への感謝が述べられた。最後に、修了生が思い出をまとめてくれたムービーの上映があり、再度、実りのある留学を振り返っていた。

### NA YONGSIK（韓国）

私にとって日本留学は大きい挑戦だった。生まれて初めて外国に行って生活するからだ。ときめく気持ちと不安の気持が半々だった。北見の生活は決してたやすいことではなかった。自ら買い物して食事を作ることも生まれて初めてだった。食材を買うのに、その食材の名前を知らなくて、とんでもない物を買ってしまうこともあった。帰国を前にして、もっと色んなことに挑戦すればよかったと後悔している。

### KANG HEONGYU（韓国）

前期に先に来ていた留学生の先輩たちとみんなで車を借りて、北海道、全国を歩き回った。そこで、北海道を理解でき、他国の学生とも互いに話をして、交流も行った。私は、未熟な日本語を用いて、理解できるように努力していた。その瞬間があまりにも嬉しかった。2月からは日本での生活を満喫するために、アルバイトも始めた。方言などわからないこともあったが、バイト先の人には色々よくしてもらった。



### 吳璋（中国）

私は、菊祭り、茶道、記念館、書道、鏡餅、太鼓、流氷見学、スキーなど、色々な活動に参加した。一番深く感じことは、日本の古文化はよく保存されていたことだ。いろいろな祭りは随所に見られた。各地域の習俗にも違いがみられた。例えば、北海道の夏祭りと本州の踊り方は違うことだ。でも、茶道はほとんど同じだった。また、日本語は面白い。日本語は和語、漢字と外來語の集合。しかし、外來語は難しかった。

### 朴愛蓮（中国）

子供の頃から、日本の文化に興味を持って、いつか日本にしてみたいと思っていた。研究室に入って、日本の学生とお互いに自分の研究テーマや実験内容を話合った。気づいたのは、日本人は研究について、とても熱心で、小さい問題でも時間と経費を使って拘ることだ。もしかして、それが日本の科学が発展できる理由の一つだと思う。日本での生活は、最初は少し不愉快な事もあったが、今は全てが好きになった。

### 趙小磊（中国）

北見にいる間に作ってきたキラキラしている思い出は、私の記憶に刻んであって大切に保存されている。札幌と小樽での素晴らしい旅行も、自分の手で和菓子を作ってきたことも、美しい花火を見た感動も、帰国してから、それらの日本で体験した素晴らしいことや日本で学んだことをぜひ親友に教えたいと思っている。また、日本で助けてくれたり、色んなことを教えてくれたりした先生方、友達に感謝している。



## 短期留学生修了式（2）

黄嫻濬（台湾）

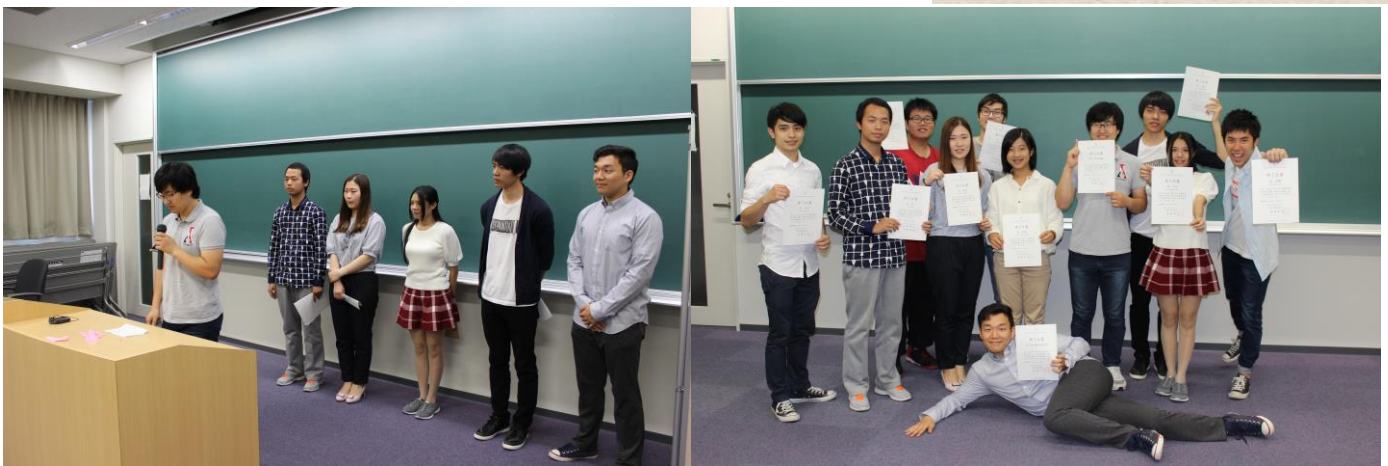
北見に来て、カーリングやスキーやスケートや水泳やサッカーや自転車やボウリングをすることができて、もともと普段にこれらのスポーツをしなかった私にとってとても楽しい生活になった。留学して一番嬉しかった事は多くの外国人の友達ができただ。それぞれの国の文化の違いを交流したり、深く理解したり、言葉を教えてもらったり、多くの事を学んだ。たくさんの思い出をありがとう。

頼君怡（台湾）

北見に来る前は、冬は過ごすことができるか本当に心配していた。そこで、私は「人生での挑戦の一つ」という気持ちを持ってここに来た。初めて雪の世界で生活し、流氷や凍てつく湖上に行われたコタン、雪祭りを見た。また、スキー、スケート、スノーモービルも体験した。冬の生活は厳しいが、北海道の美しい自然景色やスポーツは貴重な経験になった。また、日本文化も習うことができ、一番大切な宝物になった。

頼冠榮（台湾）

留学が始まり、一か月が経ったころ、北海道は冬になり、雪が降ってきた日のことを鮮明に記憶している。生まれてから初めて本物の雪を見た。すごく綺麗だったが、とても寒かった。日本人の先生と人々は親切で、優しかった。美味しい食べ物、美しい景色、日本の好きなところがいっぱいある。日本ですること、見る景色、日本人たちすべて、ちゃんと覚えている。この一年間、どうもありがとう。

李宇軒（台湾）

最初私は日本語が全然分からなかった。日本語の勉強は面白いが、難しい。たくさん練習をしなければならなかった。日本に来て色々な食べ物を食べた。好きな食べ物はラーメンと焼肉だ。北見の色々な店で食べた。一番好きな店は味覚園だ。たくさんの牛肉をたべつくした。お金があったら、味覚園へ行った。6月20日は私の誕生日で、味覚園で友達に誕生日を祝ってもらった。とても印象深い思い出の一つになった。

劉彥麟（台湾）

最初に北見工大に来た時、一番なれなかったのは気温だった。台湾の天気はいつも暑いので、急にこんな北の方に来て、本当に寒かった。私は台湾より日本の教育方法が好きだ。日本の先生は厳しいが、授業の教え方がとてもわかりやすいと思う。また、私はお寿司が好きで、トリトンに3か月で6回も食べに行った。値段はちょっと高かったが、新鮮で、おいしかった。また、食べに行きたい。

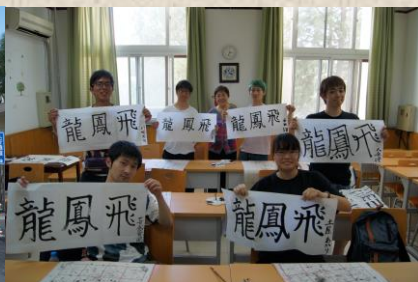
陳柏晉（台湾）

北見で一番好きなお店は味覚園だ。理由は、私の一番好きな日本の食べ物は焼肉だからだ。味覚園は焼肉食べ放題の店で、おなか一杯食べることができた。4月の友達の誕生日に初めて味覚園に行った。味覚園の食べ物はたくさんあって、おいしかった。値段はちょっと高いが、一か月に一回は味覚園へ行った。また、イベントなどにもたくさん参加した。ぼんち祭りは、楽しかったが、しんどかった。



8月17日(水)～23日(火)

## 中国文化研修 in 北京



今年の夏、北京化工大学において、初めて文化研修を実施した。研修には、6名の学生が参加し、中国語学習、書道体験、研修旅行等を行った。期間中、中国人チューターが同行してくれたこともあり、学生交流も活発に行われた。8月は非常に暑かったものの、万里の長城、天安門などを訪れ、皆スケールの大きさに圧倒されていた。

このほか、日々異なる料理を食し、中国の食文化に触れることもできた。一週間という短い期間ではあったが、毎日充実した研修を送ることができ、時間の倍以上の収穫があった研修となったようである。北京化工大学の王永生先生には、実施の計画から受け入れまで大変お世話になった。厚く御礼を申し上げたい。

### 【学生の感想】

岩淵さん(4年)：

4年生になって初めてこのような国際交流の研修に参加したが、もっと早い時期から積極的に参加すればよかったと思った。本やインターネットでは知ることのできない、実際に行ってみることで初めてわかるものがある。この経験が語学に対する意欲等自分の成長に大きな影響を与えたと思う。

大原さん(2年)：

この研修は自分を見つめ直すのにとっても良い機会だったと思う。日本で生活していたら人生観がこんなに変わることはなかったかもしれない。短い間だったが、非常に新鮮で充実した良い研修だった。



### 今後の予定(10月)

- 10月 3日(月) 後期授業開始  
留学生オリエンテーション
- 10日(月) 祝日(体育の日)
- 17日(月) Cアワー兼留学生歓迎会

発行所：北見工業大学国際交流センター

住所：北見市公園町165

電話：(0157) 26-9370

FAX：(0157) 26-9373

E-mail：kenkyu05@desk.kitami-it.ac.jp



北見工業大学